

2022年「重点指導事項」

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

【投手に関する規則】の徹底

今年度の規則改正では、規則 5.07 投手(a)正規の投球姿勢 (1) ワインドアップポジション (2) セットポジションのそれぞれ【注1】が削除されました。

いずれも「アマチュア野球では、～」と、これまで制限していたものを撤廃し Official Baseball Rules に沿った表記になります。

(1) ワインドアップポジションの【注1】削除は、これまで投手の軸足および自由な足に関し定めていた制限を撤廃し、また (2) セットポジションの【注1】削除は、「走者が塁にいない場合、必ずしも完全静止をする必要はない」というものです。

しかし、高校野球は裾野が広く、また、投球姿勢の混乱および投球動作の乱れが生じる恐れがあるため、高校野球特別規則 27 を制定し『従来どおり』の運用といたします。

また、2018年には投球動作におけるいわゆる二段モーションを規制する解釈変更の際にも、『従来どおり』の運用として高校野球特別規則を制定しましたが、近年投手に関する規則改正や解釈変更が行われていることから、特に、下記の4点を今年度の重点指導事項として指導の徹底をお願いします。

1. ワインドアップポジションとセットポジションの違いは、自由な足（軸足でない方の足）の位置で決まる。ワインドアップポジションをとる投手の自由な足は、投手板に触れて置くか、投手板から離して置くときは、足全体を投手板の前縁の延長線より前に置くことはできない。
これに対して、セットポジションをとる投手の自由な足は、足全体を投手板の前縁の延長線より前に置かなければならない。（高校野球特別規則 27）
2. 打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。したがって、投球動作中に、故意に一時停止したり、投球動作をスムーズに行わず、ことさら段階をつけるモーションなどしたりしてはいけない。
3. セットポジションをとる投手は、投手板を踏んだ後、投球するまでに、必ずボールを両手で保持したことを明らかにしなければならない。
また、投球に先立って、いったんボールを身体の前方で保持し、完全に動作を静止しなければならない。
4. 投手が投げ手をロジンに触れた後、粉を掃うために息を吹きかけることは認めない。（高校野球特別規則 17）

上記以外の【投手に関する規則】やマナーについても併せてご指導をお願いします。